

畑山紀教授退職記念号発刊によせて

経営学部長 光 武 幸

『札幌学院大学経営論集』第3号が、畑山紀教授退職記念号として発刊されるにあたり、御挨拶を申し上げます。畑山先生は、2009年3月に札幌学院大学を定年退職され、4月に名誉教授の称号を授与されております。先生は社会科学系の本学経営学部におきまして異色の経歴を有し、高校卒業後、富士通に勤務しながら工学部電気工学科で電気工学を専攻されました。その後、中央大学商学部で会計学を学び、税務会計の専門家としての道を歩み始めました。大学院修了後の1970年に本学の前身である札幌短期大学の助手になられてから講師、助教授、教授となり、定年までの39年間、本学で教育研究に従事する一方で、理事、常務理事として、大学運営に深くかかわって参りました。その間の先生の本学におけるご功績は大変大きく、ハード面の充実が昨今の大学にとって重要視される現実を先取りし、大学のシンボリックな建物であるG館の建設や大学施設の充実に大変貢献しておられます。

大学の理事として大変お忙しい中であっても、一方で研究教育に絶え間なく力を注いでおられました。税務会計は、実務家の多い分野ですが、先生は大学の研究者として専門家のお立場から常に論文を発表し、また著書も数多く出版されております。学会活動では、研究者としての顔と同時に、多くの学会員の支持により20年以上に亘って税務会計研究学会と日本租税理論学会の理事を務められ、学会の運営にも携わっておられます。最近是非営利法人の運営にも関心を持たれ研究をしておられます。

また、先生は学生を育てることに秀でております。札幌学院大学は札幌短期大学、札幌商科大学を前身としておりますが、それゆえ会計教育は高い評価を受け、この中で学ぶ学生たちに税理士や商業科教員希望の学生を育み、それを現実のものとしてきました。先生のもとで学んだ学生たちのうちで税理士になった人は20名は下らないと思っております。一昨年、経営学部に会計ファイナンス学科が誕生致しましたが、その背景は税理士や商業科教員になられた人たちの実績に裏打ちされたものであり、先生の教育の賜物と心より感謝を申し上げます。

このように畑山先生が本学に果たしたご貢献は枚挙にいとまがなく、ほんの少しだけご紹介させていただきました。

最後になりましたが、先生のお弟子さんであり、税理士であり、そして本学経営学部の非常勤講師もお引き受けいただいている溝江論先生が、大変お忙しい中、記念号の御執筆に御快諾をいただきまして心より御礼申し上げます。畑山先生におかれましては、引続き私共にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。併せてご健康に留意され益々ご活躍下さることを心より祈念する次第でございます。